

(4) スマイル班活動

本校では、1年生から6年生までの12の縦割り班(スマイル班)活動を実施している。このスマイル班では、ふるさと探検オリエンテーリング、長縄跳び(朝の活動)、スマイル集会、ピカピカタイム(朝の奉仕活動)等の活動をしている。しかし、昨年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、長縄跳びや、体育館に全校が集まるスマイル集会の活動は、ほとんどできなかった。しかし、スマイル集会の時間を活用した造形活動は、同学年ではできない異学年の友達と交流することになり、形や色、作品への思いのよさを互いに感じ合う豊かな造形活動が展開されるのではないかと考える。そこで、今年度は、感染予防のため、体育館ではなく各教室に分かれての造形活動を行うことにした。

○ねらい

- ・異学年の児童と造形活動を行うことによって、みんなで作ったり、協力する喜びや、製作の楽しさを味わわせ、主体的に学ぶ力を育てることができる。
- ・互いに刺激し、教え合うことで、全体的なスキル向上をねらうことができる。
- ・作品を掲示、鑑賞することで、環境づくりや振り返りの場をつくることができる。

(4) - 1 「自分マーク」を旗にしよう

今年度スマイル班の初めての会なので、まず、顔合わせと旗づくりを実施した。これは、各班担当教員が班活動の意義指導をし、班員が自己紹介をした後、グループのめあてや約束を話し合い、旗づくりを行うというものだ。グループの旗には、班名や班員の名前等を書き、空いている所には好きな絵や模様を描いた。グループの旗作りが終わった班から、「自分マーク」の旗作りの活動に入った。

①ねらい

- ・異学年班での造形活動に取り組み、製作する楽しさを味わう。
- ・作品を互いに鑑賞し、よさや特徴を伝え合う。
- ・校内や運動会の場で全員の作品を掲示することで、環境づくりや振り返りの場をつくる。



②取組の実際

- 日時 令和3年5月12日(水) 2校時
- 場所 スマイル班各教室
- 材料・道具 ハつ切り画用紙の半分、クレパス、カラーペン、色鉛筆等、ラミネートフィルム、ロープ
- 事前の活動
 - ・スマイルこうぼうや図画工作の時間に、オリジナルの「自分マーク」デザインを考え、下描きをする。
- 本時の活動
 - ・6年生が、目的と方法について説明する。
 - ・自分マークに彩色や描き加えをしながら仕上げる。
 - ・仕上がった作品の工夫やよさを話し合う。

本時では、彩色や描き加えが主な作業になった。低学年は、自分の好きな物（例えば動物や乗り物、植物、食べ物等）を描く児童が多かった。中学年は、好きな物をいくつか組み合わせ、飾りや模様などを組み合わせたデザインが多かった。高学年では、幾何学的な複雑な模様を描いたり、絵の中に好きな物を巧みに入れたりするなどし、配色にも工夫が見られた。



異学年の児童の丁寧に描く姿や表現に触れながら製作することで、刺激を受け、イメージが広がり、新たに描き加える児童も多かった。前もってデザインの大まかな所は考えていたため、模倣ではなく、友達の表現のよさをマークに取り入れることができ、その結果、色や形の工夫につながり、豊かな表現ができた児童もみられた。一人一人の個性が表現された「自分マーク」となった。



○ 事後の活動

- ・出来上がった作品を、ラミネートして穴を開け、各班ごとにロープで通す。
- ・廊下天井から吊って掲示する。
- ・運動会では、テントに吊るして飾る。



○ 振り返りカードより

- ・はじめはすごくまよっていたけれど、好きなものを見てよく考えたら自分にぴったりのマークができたのでうれしかったです。
- ・自分の好きな色や形をできるだけ使ったので、むずしかったけれど、楽しかったです。
- ・自分のマークをつくりながら、わたしのマークでみんなが喜んでくれたらいいなと思いました私のしょうらいの夢は、イラストレーターだからです。
- ・はじめは自信がなかったけれど、やってみたらすごくきれいに掛けて楽しかったです。
- ・ちがう学年とできて楽しかったから、次もまたやりたいです。みんなが「きれいだね。」と言ってくれてうれしかったです。

③成果と課題

ア 成果

- ・正解のないオリジナルの自分マークを考える中で、イメージを膨らませ、自分の特徴や個性を形や色に表した作品となった。
- ・丁寧に彩色し、作品を仕上げることができ、技能向上につながった。
- ・異学年による活動で、いろいろな学年の作品を鑑賞し、刺激し合うことができた。
- ・全員の「自分マーク」を校内や運動会で掲示することにより、満足感を味わわせ、鑑賞の場や成長を振り返る環境の場をつくることができた。

イ 課題

- ・今回は白の画用紙を全員が使ったが、細かいデザインを描いている児童は、表現しやすい色鉛筆を使って描いている児童が多く、鮮明さに欠ける作品になってしまった。近くで見ると細かい所までよく描けているが、遠くから見ると、見えにくい部分があった。色画用紙を使ったり、細字のカラーペンを使うなど、材料や道具を考える必要がある。

(4) - 2 「コロナにまけるな！」～折りづるにねがいをこめて～

①ねらい

- ・異学年班での造形活動に取り組み、協力して製作する楽しさを味わう。
- ・作品を鑑賞し、よさや特徴を伝え合う。
- ・新型コロナウイルス感染症で苦しむ人がなくなるようにという自分たちの思いや願いをみんなで共有し、思いを表現に生かす。

②取組の実際

- 日時 令和3年6月16日(水)2校時
- 場所 スマイル班各教室
- 材料 折り紙, 糸, ストロー, 割り箸, 洗濯ばさみ等
- 事前の活動



- ・折り鶴の折り方を教職員が動画に録画し、タブレットPCで共有する。
- ・各学年スマイルこうぼうや図画工作の時間に、動画や説明図を見せながら、折り鶴の折り方を指導する。

○ 本時の活動

- ・6年生による活動の目的の説明をする。
- ・動画で折り方を確認しながら、折り鶴を製作する。
- ・活動を振り返り、今後の製作について説明する。

事前指導のためか、児童はとまどうことなくスムーズに製作が進んだ。折り方が分からない児童には、高学年や得意な児童が優しく教える姿が見られた。1時間という時間ではあったが、たくさん折り鶴ができた。

○ 事後の活動

- ・2週間ほど期間をおき、休み時間等に折った鶴を各班ごとの箱に追加する。
- ・6年生が班ごとの折り鶴を糸で通しまとめる。
- ・玄関や3階階段踊り場に折り鶴カーテンとして掲示する。



学校で用意した折り紙の他に、各自いろいろな色紙や和紙を使って製作する児童も多く、あっという間に箱は折り鶴でいっぱいになった。折り鶴カーテンを見た児童は、「きれい。」と歓声を上げ、自分たちが作った折り鶴が美しく飾られたことをとても喜んだ。ま

た、この学習がもとに「折り紙 ブーム」となり、それまで興味のなかった児童が意欲的に休み時間に折る姿が見られた。

○ 振り返りカードより

- ・ コロナにまけたくないからがんばってつくりました。できるだけ多くつくってコロナをやっつけようと思いました。
- ・ ぼくは、あまりつくれなかったけれど、6年生が教えてくれて5こおれてうれしかったです。
- ・ ぼくは、4こつくりました。少ないけれど、ていねいに折れたり教えたりできたからいいと思いました。折り紙がとくいだから楽しかったです。みんながつくった折りづるが階段にかざられてうれしかったです。
- ・ みんなで心をこめてたくさんつくったので本当にコロナがおさまったらいいなと思いました。今かざっているづるがカーテンみたいにきれいで学校がきらきらになった気がします。

③成果と課題

ア 成果

- ・ 日本の伝統文化である「折り紙」に親しむことができた。
- ・ これまで折り紙に興味なかった児童が、関心をもって製作するようになり、折り鶴以外のいろいろな折り紙にも挑戦する児童が増えた。
- ・ 何度も折るうちに、「折る」という手先を使った技能が向上し、丁寧に仕上げることができるようになった。
- ・ 異学年が共に活動する中で、高学年の児童が低学年の児童に教えるなど、児童同士の「ひと」とのかかわりができた。
- ・ 自分たちの作品が折り鶴カーテンとして掲示され、一人ではなく協同して製作することによって得られた作品の色や形の美しさを感じる環境づくりができた。
- ・ 自分たちの思いや願いを込めて表現するよさに気付くことができた。



イ 課題

- ・ 折った折り鶴を糸で通してまとめる作業に思ったよりも時間がかかり、6年生に負担をかけた。
- ・ 折り鶴カーテンを自分たちでその場で完成するのではなく、6年生や職員による仕上げだったので、鑑賞の時間をそれぞれの班でとることができなかった。

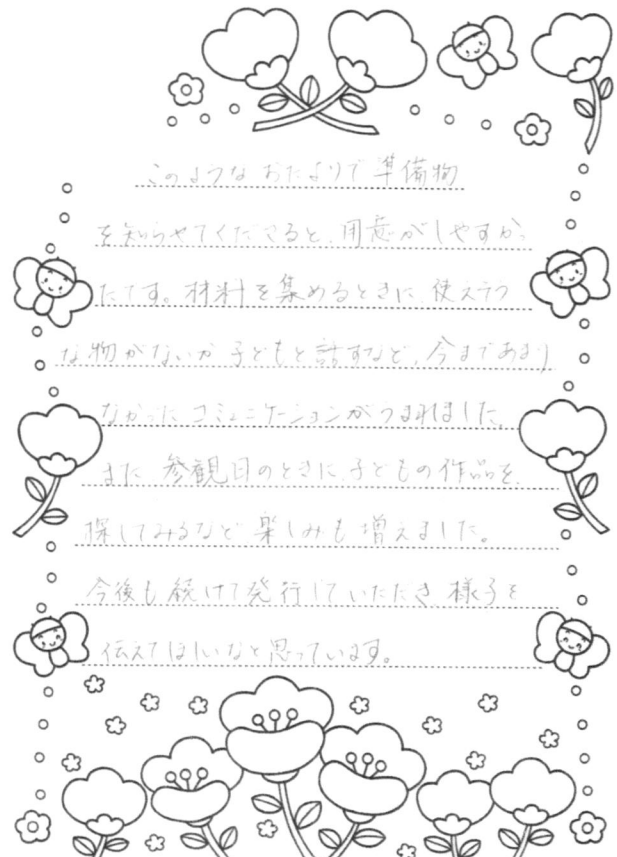
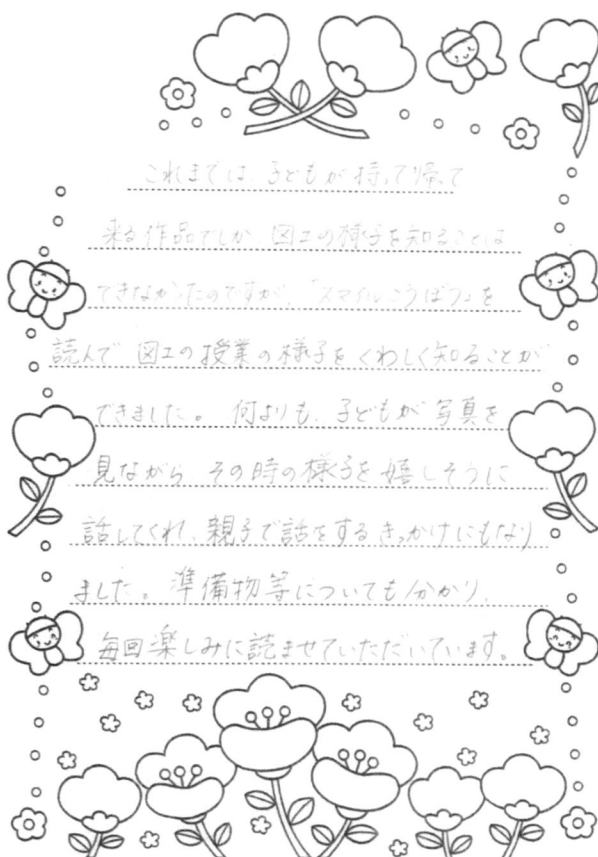


(5) 図工だより「スマイルこうぼうだより」の発行

児童が生き生きと活動する様子を保護者に伝えるべく、図工だより「スマイルこうぼう」を家庭に向けて発信している。基礎的なスキル向上を目指すための朝の活動「スマイルこうぼう」や、縦割り班（スマイル班）で図画工作の活動を行う「スマイル集会」での活動の様子を写真付きで掲載している。各時間に込められた児童と教職員の思いや願いを保護者に伝えると同時に、今後の活動で必要になる準備物のお知らせを載せ、協力を依頼している。

さらに、「スマイルこうぼう」を通して、保護者に図画工作に関してより一層の興味関心を持ってもらうこともねらいとした。学校での様子や頑張りが伝わることによって、家庭内でも図画工作に関する会話が増えたり、持ち帰った作品に目を留め、これまで以上に大切に飾ったり保管したりすることを期待した。家庭に周知し、支援してもらうことで、児童の自尊感情を高めることができ、培った自己肯定感や自己有用感を基盤に、自他の作品や製作過程での良さに気付きやすくなると同時に、持つ力を十分に発揮するための後ろ盾になると予想した。

試行錯誤しつつ、異学年で相談し、協力しながら作品づくりに取り組む様子を、セリフ付きで記載することで、保護者にも図画工作の活動に興味を持ってもらえ、協力を得られやすくなった。図工だよりを通して親とコミュニケーションを取っている児童もおり、学校からの一方的な情報提供だけでなく、親子の交流を深めるツールとしても機能している。家庭において、作品を褒めたり、製作課程の努力を認めたり、相談に乗ったりなど、対話が増えることによって、児童はより一層の達成感や充実感を感じると共に、次の作品づくりへの意欲向上に繋がった。



スマイル こうぼう

児童小学校
園工たより
2022年6月28日

今年度児童小学校では、子どもたちの園工の基礎的・基本的な技能の向上をめざし、『スマイルこうぼう』という活動を行うことになりました。この活動では、基本的な道具の使い方が身につくよう練習をしたり、工作や造形活動を行ったりし、学期や全校で活動していく予定です。『スマイルこうぼう』は、保護者へご理解のお願いとして行います。

この園工たよりでは、『スマイルこうぼう』での子どもたちの様子や、園工の時間に作った作品などをお伝えしていこうと思います。また、授業で使うための材料集めのご協力もお願いすることがあると思います。よろしくお願ひします。

色えんぴつ、
鉛の筒を
使っているよ。



お知らせとお願い

〇準備物の確認をよろしくお願ひします

『スマイルこうぼう』では、はさみやのり、色えんぴつや鉛の筒を使用します。子どもたちがスムーズに活動に取り組むことができるよう、お道具箱や鉛の筒セットの準備の確認をお願いします。色えんぴつや鉛の筒、のりなど使い切っている物があれば、新しく補充してください。

活動の様子

5月12日（水）に全校でスマイル活動がありました。1年生から5年生までで構成されている12班のスマイル班に分かれて、「自分マーク」を編み、自分の班を作る活動を行いました。子どもたちは各自考えた「自分マーク」を、色や模様にとりながら丁寧に仕上げていきました。完成した際は、班ごとに学校下に掲示しています。5月4日（金）の卒業日の時にご覧ください。写真はスマイル活動や、朝のスマイルこうぼうの活動写真です。ホームページにも掲載しています。ご確認ください。

第1回・2回 スマイルこうぼう



自分だけのイラスト
ができたよ!

集中タイム

コンパス
も登場!

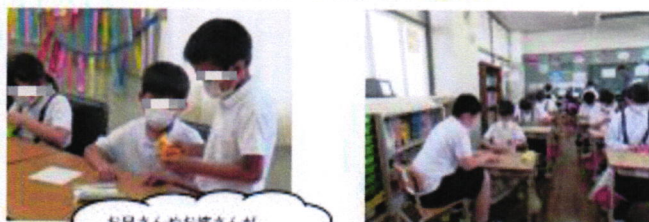
どんな柄にしようかな。
どんな色にしようかな。

スマイル、 こうぼう

児童小学校
園工たより
2022年7月15日

6月10日（水）、本年度2回目のスマイル活動を実施しました。今回は、『コロナに負けるな!』～折り紙に願いをこめて～と題して、みんながたくさんの折り紙を作りました。高学年の子が低学年の子に折り紙の作り方を丁寧に教えるなど、スマイル班(学年集団)ならではの素敵な活動もあり、各教室でたくさん見られました。また、折り紙の作り方を詳しくまとめた先生方の自作動画もあり、細かい手順がたくさんの折り紙を制作することができました。当日、6年生が、絵とストーリーを通し、折り紙をつなげてくれました。廊下のすずり等に飾られた折り紙が、風にたなびく様子を見て、あらためて、『コロナに負けるな!』という思いを強く持ちました。

活動の様子



お兄さんやお姉さんが
優しく教えてくれたよ。



みんなの鶴をつなげたら
どんなかんじかな。

細かいところは
むずかしいね。

ほくの好きな色の
鶴を折ろう。

つなげた鶴は校内に飾って
います。懸架の際にぜひご
覧ください。



(6) 図工ファイルの活用

① 令和2年度の課題から

- ・児童から生まれた豊かな発想や自分の成果を、いつでも手軽に振り返ることができるようなポートフォリオの必要性を感じた。
- ・これまでの成功体験を形として残しておくことで、次の学びへの深まりが持てるのではないかと考えた。

② 活用のねらい

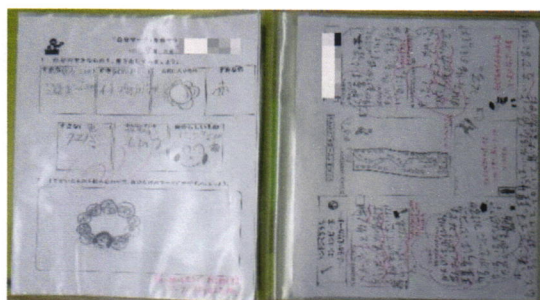
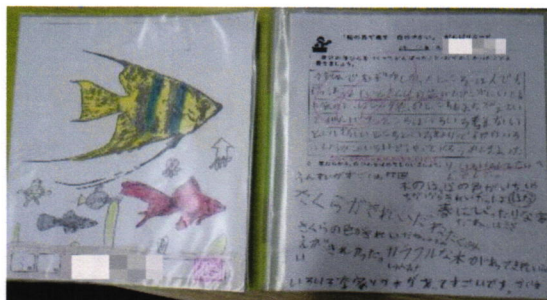
- ・今まで作り上げた自分の作品の良さに気付く。
- ・過去の作品を見てその時のひらめきやアイデアを思い起こし、新たな表現への発想に生かす。
- ・工作や立体作品の写真を記録保存する。

③ 成果

- ・表紙を作成したことで、「自分だけのファイル」が完成し、愛着を持つことができた。
- ・スケッチブックを活用した学年は、その都度膨らませたイメージや思いをすぐにかき留めることができた。



- ・気軽に過去の作品を見ることで、その時々喜びや、他者に認められたときの気持ちを思い出して自信となり、「図画工作科が好き」という気持ちに繋げることができた。



④ 課題

- ・誰でもすぐに利用することができるが、自分の好きなタイミングで製作過程を記録するにはタブレット端末が有効であった。図工ファイルとICT機器との連携については今後も研究を重ねていきたい。